

Ⅲ. 人 口

甲. 人 口 ノ 靜 態

10. 帝 國 人 口 總 數 及 男 女 別

本表ニ掲グル人口中〔内地ニ本籍ヲ有スル人口(本籍人口)〕ハ明治五年ヨリ同三十年マテハ内務省ノ調査ニシテ同省ヨリ年々太政官ニ上申ス又ハ刊行セシ戸口表ニ依ル

明治三十一年同三十六年同四十一年大正二年末ノ人口ハ明治三十一年内閣訓令第一號甲號ニ基キ市町村長ノ調製シタル材料ニ依テ本局之ヲ整理セシモノナリ但明治三十一年及同四十一年末ノ數當該人口靜態統計書ニ掲グルモノト相違セルハ同書編纂ノ當時缺漏セシ分ヲ追加セシニ依ル、右調査ノ中間各年ハ同年内閣訓令第一號乙號ニ基キ本局ノ調査シタル出生及死亡並就籍、除籍者ヲ加除シテ推計セシモノナリ、

明治三十年以前ニ在リテハ人口調査ノ規定ニ屢改廢アリテ其ノ方法一様ナラス隨テ人口増加率ニ於テ甚タ不整ナルモノアルハ往々右調査方法上ヨリ起レル形式上ノ影響アリ其ノ詳細ハ大正五年本局刊行ノ〔大正二年末人口靜態調査ノ結果ニ據ル帝國人口概説〕

(1-12)頁ニ就テ之ヲ看ルヘシ明治十六年以後各年ノ人口ハ在監獄無籍者ノ調査アルヲ以テ本表中ニ之ヲ計上セリ

〔朝鮮人〕〔臺灣人〕〔樺太人〕ハ各其ノ主管廳ニ於テ調査シタルモノニシテ臺灣人ハ行政區畫内ノ生蕃ヲ含包シ蕃地ノ生蕃ヲ除外セルモノ樺太人ハ樺太アイヌ、ギリヤーク、オロツコ、トンダースノ總稱ナリ

明治十二年人口ノ男女ノ和カ計ニ符合セサルハ鹿兒島縣大隅國ノ人口男女ノ別ナキヲ以テ計ノミヘ算入セシニ依リ又明治三十二年以後各年ニ於テ男女ノ和カ計ニ符合セサルハ人口推計ノ要素タル死亡者中男女不詳者アリテ男女孰レヨリモ控除スルコト能ハサリシニ依リ計ノミヨリ之ヲ控除セシニ依ル

植民地ニ於ケル人口ノ増加率甚タ不整ナルモノアルハ或ハ戶籍整理ニ依ルモノモアルヘク國籍得喪ニ依ルモノモアルヘク又樺太人ノ如キハ出生死亡ノ狀態大ニ内地ト異ルモノアルニ依ルカ如シ

Table with columns: 調査ノ時, 男, 女, 計, 毎年増加 (實數, 人口千=付), 女百=付男. Section 1: 内地ニ本籍ヲ有スル人口(本籍人口). Rows from 明治五年 to 四十二年.

10. 帝 國 人 口 總 數 及 男 女 別 續

Table with columns: 調査ノ時, 男, 女, 計, 毎年増加 (實數, 人口千=付), 女百=付男. Sections: 2. 朝鮮人, 3. 臺灣人, 4. 樺太人, 5. 總計. Rows from 明治四十二年 to 二十一年末.

臺灣ノ我版圖ニ入リシハ明治二十八年ナルモ當時同島ノ人口未タ詳カナラス依テ毎年ノ帝國總人口ヲ掲グルコト能ハサルカ故ニ茲ニ最近内地人口調査ノ年ヨリ週テ毎五年ノ數ヲ掲グルニ止ム